

# 鶴ヶ森城跡

ときがもりじょうせき  
鶴ヶ森城は、

大洲青少年交流の家の西側にある山の頂を削平して築城されたと伝わる。南には堀切が一条、北には複数の曲輪や竪堀、二重堀切が見られる。標高約二百メートルの本郭からは、北は地藏ヶ嶽城（大洲城）や大洲盆地、東は菅田城、南は鳥坂峠や宇和へ向かう尾根筋を一望することができる。

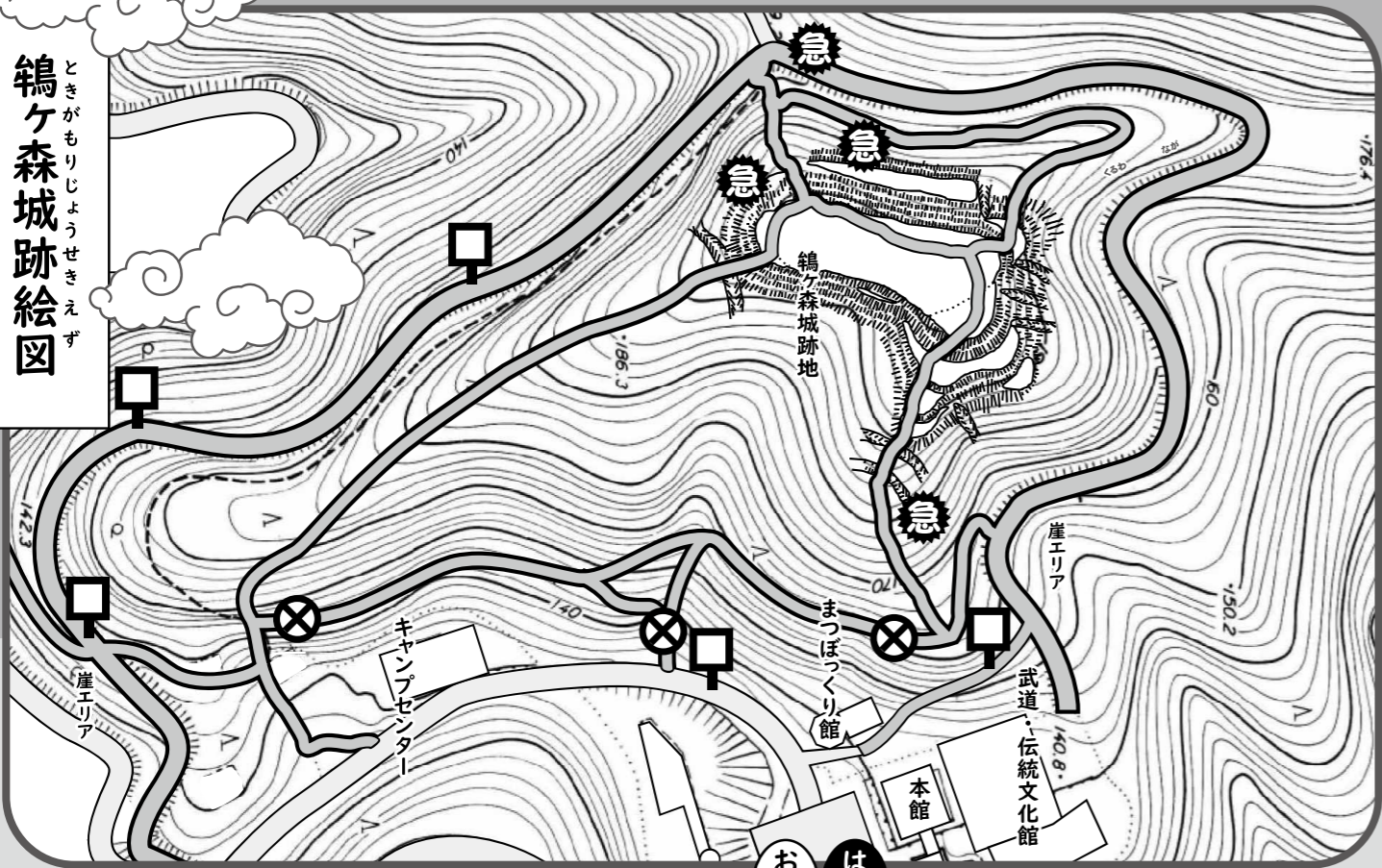
戦国時代の伊予国（愛媛県）南部は、大洲の宇都宮氏と、宇和の西園寺氏の対立に加え、伊予国中部の河野氏、安芸国（広島県）の毛利氏、土佐国（高知県）の一条氏、長宗我部氏、豊後国（大分県）の大友氏が覇権を争う地域であった。

この地は多くの武将が訪れ、様々な思惑が交錯し、四国の関ヶ原と呼ばれても過言ではない。

名を馳せた武将たちの野心、権力欲と征服欲に彩られた鶴ヶ森城は、今は静かに時を重ね、未来の子どもたちを見守り、たどってきた歴史をこれからも伝え続けていく。

令和二年三月吉日

# 鶴ヶ森城跡絵図



□ 昔の道具ポスト

⊗ 立入禁止

はじめる  
おわり

# 昔の道具

R4.5

## 活動のすすめかた

※雨天時は館内コースをめぐる予定です。

❶ このシートをもって、鶴ヶ森を巡りましょう。左側の地図を参考にはじめ地点から出発します。道順は自由です。

❷ 道沿いに設置されている「昔の道具ポスト」を探します。

青い枠の看板が、昔の道具パズルの問題です。看板を見つけたら、次の「い」↓「に」の順にすすみましょう。

「い」このシートの左下から、「昔の道具ポスト」と同じ「タイトル」を見つけます。

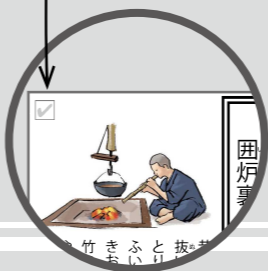
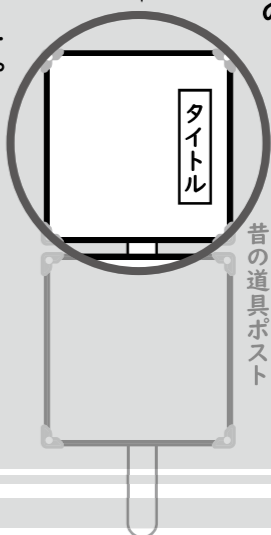
「ろ」そこに書かれている問題の答えを枠内に記入します。

「は」「昔の道具ポスト」に描かれている道具を、このシート裏面「昔の道具図鑑」から探します。

「に」見つけたら、左上の「✓」に印をつけましょう。

❸ 問題をすべて解いて「おわり」地点に到着したら、

別紙の「昔の道具図鑑めいろ」を解きましょう。



<p>むかしの洗濯</p> <p>「むかしの洗濯」の様子が描かれている絵の番号を選びましょう。</p>	<p>電化製品</p> <p>タイトルにあった絵を選びましょう。</p>
<p>どれが一番新しい？</p> <p>つくられた時代の新しいものを選びましょう。</p>	<p>いつの時代</p> <p>描かれている絵がつくられた時代はいつでしょう。時代を書きましょう。</p>

大洲のなまえ

描かれている絵のうち「おおず〇〇」「と」いう名前が入るものを選びましょう。

ヒント

これも参考に問題を解きましょう。

タイトル

質問になります。

看板の△は、質問を解くためのてがかりです。



# 昔の道具図鑑

毎日のすまいのなかで使う道具が、人々の思いに合わせて変化してきました。

古くから残る暮らしにかかわる道具、今の道具との違いを考えてみましょう。みんなのくらしに欠かせない便利な道具や家電がなかったころは、どのようにくらしていたのかな？

ここでは、鶴ヶ森周辺の古くから残る建造物や、地域の歴史にかかわりのあるものも紹介しています。

## 昔の道具

「昔の道具図鑑」カードのみかた  
それぞれのカードには、名称に関する絵と、その説明文が書かれています。

カード

説明

名称

要素

看板ポストで見つけた！

※要素は、  
①〜④が終わりから別紙  
①〜④が終わりから別紙  
使用します。

### レンガ

煉瓦は人間の身近にある土を使って作ることができるので、紀元前から各地で建築材料として使われてきました。丈夫で防火に優れた煉瓦の建物は、銀行・駅舎・トンネルなど重要な施設に用いられました。因みに「レンガ」は日本独自のことはです。

### お遍路

四国には平安時代の僧侶・弘法大師ゆかりの88ヶ所の寺院（札所）を巡る「四国遍路」の風習が残っており、様々な折願のためにそこを巡る人々を「お遍路さん」と呼んでいます。現在でも歩き遍路の姿を見ることが出来ます。

### 囲炉裏・ふいご

昔の民家では、床を四角に切り抜いた囲炉裏で火を焚き、暖をとって、煮炊きをしていました。ふいごは、調理の際に火を吹きおこすために使われる火吹き竹のことです。囲炉裏で火を絶やさず、電や照明具の火種として使っていました。

### 炊飯器

昭和30年、愛媛県新居浜市出身の技術者、発明家の三並義忠がスイッチ一つで自動的にご飯が炊ける自動式電気釜を発明しました。炊飯は昔から女性の重労働の一つでしたが、三並の発明は主婦の重労働をひとつ解放するの役に立ちました。

### 洗濯板・ひし

衣類などを洗うために、木の板に刻み目をつけた「洗濯板」にぬらした布をこすりつけて汚れを落とします。洗って干したあと、しわを伸ばしたり折り目をつけるのは、炭火の中に入れて「火のし」を布にあててなでました。

### 日時計

規則的に東から昇って西へ沈む太陽。晴れている日には影は太陽と反対側にできます。影の動きは太陽の動きにあわせて規則的で時計の役割をします。これを日時計といえます。公園や公共施設などにミニメントや装飾品として使われています。

### 火縄銃

大洲藩は、主要な製造地である堺（現在の大阪府堺市）の鍛冶職人の内、井上関右衛門に領内の銃の製造を任せ、大洲の鍛冶師は井上関右衛門家から技術を学び、規模は小さいながらも火縄銃の製造や、修理を行う職人が居ました。

### 行燈

行燈は江戸時代に広まった道具の一つで、竹や木で作られた枠に和紙を張り付け、その中にいる灯明（皿に油を入れ、灯芯に火がついたもの）が風で消えないようにしたものです。夜間の作業や読書ができるようになりました。

### 御座船（川船）

愛媛県大洲市の肱川で運用された和船は、底板が平らになっていて浅瀬でも川底につかえないよう動きやすい形になっています。推進力は、主に檣の木でつくられた長さ約6〜7m位の櫓や布で作られた帆を利用しました。

### 水車

水を受ける羽根が付いた歯車を受けて歯車が回転するように作られており、その回転する力を利用して、お米をついて糠を取ったり（精米）、石臼を回して粉を作ったり（製粉）しました。

### 箱膳・箸

箱膳とは一人分の食器を入れた木製箱形のお膳のことです。その中にお椀・皿・箸・湯呑みなど個人の食器一式を収納します。箸は、奈良時代に普及しました。食器の多くは木製のもので多く、その後、陶器製も増えてきました。

### 桶

桶とは木製の容器の事をいいます。鎌倉時代に中国から伝わり、江戸時代には桶職人のすぐれた技術により、洗い桶、調理用桶、運搬用桶、貯蔵用桶など用途に合わせた大小様々な桶が作られ、一般的な生活道具として使われていました。

### 羽釜といもたき

羽釜とは、竈にかけるために鑄造（は）をつけた飯炊き釜のことです。お米を炊いたり鍋料理等に使用されてきました。愛媛県大洲市の風物詩「いもたき」は、明治15年頃には大洲の秋の行事として定例化していたことが文献に見られます。

### 電信電話

磁石式電話機という名称で呼ばれていた電話機で、明治から昭和にかけて使われていました。江戸時代末期、愛媛県大洲市出身の三瀬諸洲が、電信実験を行い、打電に成功しました。「日本における電信の黎明」として記念碑も建てられています。

### 蠟石

「ろう石」は、自然に産出する鉱物（岩石）の一種で、とても柔らかく、爪でひっかくと傷が付きやすい。明治時代の学校では、ノート代わりに石盤を持ち、そこに、ローセキを使って文字を書いたり、計算をしたりして勉強していました。

### 切り離してカードのように使える

①一枚ずつ切り離す  
②まとめる

部分に穴をあけて  
ひもを通しておく  
へらなどでめくって読めるよ。

### 火打ち石

硬い鋼にぶつけて飛ばした火花を、ヨモギの葉でできた「もぐさ」に移して火種をつくる道具です。古墳時代の遺跡からも出土しています。昭和時代初期まで使用されていましたが、マッチやライターの普及により次第に姿を消していきました。

### 火縄銃

大洲藩は、主要な製造地である堺（現在の大阪府堺市）の鍛冶職人の内、井上関右衛門に領内の銃の製造を任せ、大洲の鍛冶師は井上関右衛門家から技術を学び、規模は小さいながらも火縄銃の製造や、修理を行う職人が居ました。

### 竹水筒・井戸

弥生時代から井戸を掘る技術が広く一般に行き渡っていました。水は土製の甕や、木製の桶で保存され、水を持ち歩かために竹製の水筒（竹筒）が使われました。竹は中が空洞であり、簡単に水を保存できるため、古くから用いられていました。

### 水車

水を受ける羽根が付いた歯車を受けて歯車が回転するように作られており、その回転する力を利用して、お米をついて糠を取ったり（精米）、石臼を回して粉を作ったり（製粉）しました。

### 大洲和紙

愛媛県内子町で作られている手漉き和紙です。楮・三椏・雁皮・麻・竹・わら・トロアオイを原料として作られています。大洲和紙は薄くて漉きムラが少ないため、高級で使いやすい書道半紙として重宝されるようになりました。

### 桶

桶とは木製の容器の事をいいます。鎌倉時代に中国から伝わり、江戸時代には桶職人のすぐれた技術により、洗い桶、調理用桶、運搬用桶、貯蔵用桶など用途に合わせた大小様々な桶が作られ、一般的な生活道具として使われていました。

### 鐘

多くは銅（青銅）で造られており、表面には数々の模様や彫刻が施され、制作された理由・時期・製作者名などが彫り込まれています。鐘の最上部分の「龍頭」は、叩えることが大好きであった龍の性格にちなんで飾りがつけられています。

### 電信電話

磁石式電話機という名称で呼ばれていた電話機で、明治から昭和にかけて使われていました。江戸時代末期、愛媛県大洲市出身の三瀬諸洲が、電信実験を行い、打電に成功しました。「日本における電信の黎明」として記念碑も建てられています。

### 臥龍山荘

明治時代に愛媛県大洲市出身の豪商で木蠟貿易に成功した河内寅次郎が、老後の余生をここで過ごしたといわれ、大洲随一の景勝地であるこの地に明治30年頃から10余年をかけて築造した別荘です。平成28年「国の重要文化財」に登録されました。

### 切り離してカードのように使える

①一枚ずつ切り離す  
②まとめる

部分に穴をあけて  
ひもを通しておく  
へらなどでめくって読めるよ。

### 昔の衣服

「からむし」という草のすじ（繊維）を取って編んだ布が使われていました。ほかにも「麻」などの植物が使われました。綿から糸をとった「木綿」は、古くならたら細長く裂いて織り直し「裂き織り」布として、再利用しました。

### 大洲和紙

愛媛県内子町で作られている手漉き和紙です。楮・三椏・雁皮・麻・竹・わら・トロアオイを原料として作られています。大洲和紙は薄くて漉きムラが少ないため、高級で使いやすい書道半紙として重宝されるようになりました。

### 桶

桶とは木製の容器の事をいいます。鎌倉時代に中国から伝わり、江戸時代には桶職人のすぐれた技術により、洗い桶、調理用桶、運搬用桶、貯蔵用桶など用途に合わせた大小様々な桶が作られ、一般的な生活道具として使われていました。

### 電灯・カンテラ

カンテラは鉄、銅などの金属製で、土瓶のような器に石油を入れて、綿糸を芯に点灯していました。明治15（1882）年に日本で最初の電灯が東京・銀座にもとり、大正時代には一般家庭でも電球が普及し、生活の様子が大きく変わりました。

### 水車

水を受ける羽根が付いた歯車を受けて歯車が回転するように作られており、その回転する力を利用して、お米をついて糠を取ったり（精米）、石臼を回して粉を作ったり（製粉）しました。

### 和時計

室町時代末にキリスト教の宣教師により機械仕掛けの時計が伝来し、江戸時代に和時計が作られました。高価で所有できるのは一部の人のみに限られました。多くの人には、お城の大鼓櫓の太鼓や、お寺の鐘などで時刻を知ることができました。

### 火縄銃

大洲藩は、主要な製造地である堺（現在の大阪府堺市）の鍛冶職人の内、井上関右衛門に領内の銃の製造を任せ、大洲の鍛冶師は井上関右衛門家から技術を学び、規模は小さいながらも火縄銃の製造や、修理を行う職人が居ました。

### クワ・農機具

土を耕したり、均したりする道具として木製の鍬、犁などが広まりましたが、弥生時代に鉄の生産がはじまり、古墳時代には農具の刃先が鉄製のものへと進化します。木製より容易に、より深く耕すことができ、農地を確保しやすくなりました。

### 大洲和紙

愛媛県内子町で作られている手漉き和紙です。楮・三椏・雁皮・麻・竹・わら・トロアオイを原料として作られています。大洲和紙は薄くて漉きムラが少ないため、高級で使いやすい書道半紙として重宝されるようになりました。

### 桶

桶とは木製の容器の事をいいます。鎌倉時代に中国から伝わり、江戸時代には桶職人のすぐれた技術により、洗い桶、調理用桶、運搬用桶、貯蔵用桶など用途に合わせた大小様々な桶が作られ、一般的な生活道具として使われていました。

### 弓矢・石斧

石器は、石斧、石包丁や石鎌、石鏃（矢じり）や石剣など用途に合わせて石材が選ばれていました。大洲市菅田町にある村島宮の首遺跡では、割るとガラスのように鋭くなる赤色珪質岩を用いて、石鏃や石鎌などの小型の利器がつくられています。

### 臥龍山荘

明治時代に愛媛県大洲市出身の豪商で木蠟貿易に成功した河内寅次郎が、老後の余生をここで過ごしたといわれ、大洲随一の景勝地であるこの地に明治30年頃から10余年をかけて築造した別荘です。平成28年「国の重要文化財」に登録されました。

### 切り離してカードのように使える

①一枚ずつ切り離す  
②まとめる

部分に穴をあけて  
ひもを通しておく  
へらなどでめくって読めるよ。